

仙台陣屋かわら版

第六十八号
(平成二十二年十月号)

HP: <https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.hokkaido.jp
〒059-0921 白老町陣屋町六八一 TEL&FAX 0144-852666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

「三市町合同撮影会作品展」が閉幕しました

八月二十八日(土)から、開催しておりました春の陣屋をモチーフとした写真展が、九月十二日(日)閉幕となりました。期間中の入館者はのべ四九二人。五月九日に白老ビジュアルポイント・登別ヨハンクラブ・室蘭北海道写真協会の三サークルが陣屋跡で行った合同撮影会の入賞作品など、約四十点を展示しました。皆さん如何でしたでしょうか。

それぞれのサークルが交流し、鎬(しのぎ)を削ることによって、より良い作品ができたのではないかと思われまます。また、資料館としましても撮影場所として史跡白老仙台藩陣屋跡を選んでいただいたことは光栄の極みです。
例年であればこの時期は、毎年、桜の時期と重なるため、



当初は美しい「陣屋の桜」と「モデルさん」が、ジョイントしての撮影会の予定でしたが、今年は桜の開花が遅く、白樺とモデルさんの撮影会となつてしまいました。モデルさんもお寒い中お疲れ様でした。

陣屋跡には四季折々の美しい姿がありますので、今後も撮影会等の場所として皆さんにご利用していただければと思います。

求む、皆さんの貴重な意見。地域の声なくして郷土博物館は成り立たない！

前(財)アイヌ民族博物館館長の中村齋氏を講師としてお迎えし、全四回開講するしらおい歴史講座「博物館で学ぶ郷土へ博物館は郷土の表現者」の第一回講座を九月十八日に開催しました。

資料館会議室にて「ふるさと」、この心地よい響き」と題し、郷土博物館機能を創り出す方法を模索する上で大切な「個人と郷土」についてご講演いただきました。

中村氏は、「郷土」は個人が生まれ育った所であり、人格の基礎を形成した所である。そして、生涯生存の拠点であり、存在を証明する場所であると語りました。また、博物館は郷土の全てを凝

縮して示す働きを持っていて、子どもから大人、果ては外国の方まで、万人が郷土を学べるもっとも機能的な場所であると話されました。

受講者からは、陣屋資料館やアイヌ民族博物館と郷土博物館との違いについての質問や「白老に移住してきたばかりで『町史』は持っているが、なかなか読む機会がなく、歴史を知りたくても時間的にも読むのも大変なので、実際に地域に出て探訪でもできればいいが」などといった感想が寄せられました。

今回の講座では、ふるさと学習が未来社会を創る基礎であること再確認でき、また、「個人と郷土」の関係性について、改めて考えさせられるものとなりました。

全四回の開講を予定している「しらおい歴史講座」。会場は何れも資料館で十六時から十七時半までの開催となっております。参加費は無料ですので、皆さん、是非とも足をお運びください。また、対談・討論の時間を多めに設けております。受講者の積極的な参加によるご意見、ご要望お待ちしております。なお、今後の日程は九月二五日・十月二日・十六日です。



「証拠が大事」と、繰り返し力説する中村学長

『三好監物物語』

『三好監物物語』

陣屋資料館にも展示コーナーが設けられている三好監物。彼の足跡を追った漫画がこの度できました。先人の偉業、幕末の北海道の様子を伝える内容となっており、歴史の荒波の中、自らに与えられた使命に対し熱意をもって遂行した御備頭三好監物の生き様が描かれています。

監修は三好監物のご子孫、三好彰先生。先生は仙台市泉区にて三好耳鼻咽喉科クリニックを開院されており、一九八八年より二十年近く白老町の学童らの耳鼻科検診をしてくださっている方です。一五〇年以上にもわたる縁が、今でも北海道と遠く離れた仙台とを結んでいることは喜ばしいことであり誇れることです。資料館としてもこの大切な縁を後世に残していけるよう努めていきたいです。監修者の三好先生並びに発行に携わった皆様、ありがとうございます。これからも白老町を宜しく願います。『三好監物物語』仙台藩蝦夷地へ・激動の幕末史』は限定



五百部の非売品。陣屋資料館などにて好評配布中です。

生活と密に関わった碑。どれだけあるか知っていますか？

碑と書いて、いしづみと読みます。かつては日々の生活と密接な関わりを持ち、碑面に刻まれた文字からは、当時の人々の思いの丈が読み取れます。白老町では八九基が確認されていますが、みなさんは幾つ知っていますか？

すっかり空も高くなり、肌寒さすら感じられた九月最後の土曜日、「ポロトの森ネイチャーガイドめぐの会」主催の「歴史めぐり 街あるき」に武永館長・平野学芸員が講師として参加しました。以前白老町民だったという方をはじめ、めむの会会員の方々を含めたおよそ二十人の参加者が、白老町大町・本町に点在する石碑を巡り、白老町の歴史や現在の街並みについて学びました。



〈明治天皇行在(あんざい)所碑で記念写真。普段は入ることが出来ません。〉

文化財パトロール。それは血の滲むような...

「今年の夏は蚊が少ない」。誰が呟いたかも思い出させませんが、そんな感想がふと脳裏を過ぎりました。道教委が毎年実施する「文化財パトロール事業」で、ポロト湖の東岸に位置する「ポロト遺跡」へと向かっていたときのことです。普通に歩いているのに、常に数匹が肌に張り付いてい

る始末。中には服に止まった後、異様な速さで露出している箇所を探して這い回るヤツもいました。「蚊という生き物はこんなに早く歩けるのか」と、内心ゾツとしたものです。

通常ですと、あまり蚊に吸われない体質なのですが、このパトロールの間だけで、数年分は血を提供したかもしれません。苦勞の甲斐もあつてか、遺跡に異常は見受けられませんでした。

絶好の写生会日和。素敵な絵が画けたかな？

ようやく秋めく風が吹き始めた九月九日、白老小児童が、陣屋跡へ写生会に訪れました。思い思いの場所を陣取ると、あとは一心不乱に画板と睨めっこです。時折、「ヤッホー」の掛け声上がるのはご愛嬌。カメラを向けてもじっと写生に集中しているので、モデルの資質もありそうですね。



〈資料館を背景に、仲良く並んで写生中〉

まだまだ日差しが強い中、本当にお疲れ様でした。資料館でも飾りたいので、ぜひ貸してください。描き終えた子からカエルを探していました。

「仙台陣屋かわら版 第六十八号(平成二十二年十月号)」

発行日: 平成二十二年九月三十日

発行所: 仙台藩白老元陣屋資料館 担当者: 平野・干場